

携帯電話エリア整備推進検討会第6回会合（議事要旨）

- 1 日時 平成22年4月27日（火）10：30～11：10
- 2 場所 総務省11階 第3特別会議室
- 3 出席者
 - (1) 構成員（五十音順、敬称略）

冲中秀夫、加藤裕幸（代理：古井秀介）、喜安拓、黒川和美、高畑文雄、多賀谷一照、佃英幸、富樫敦、徳広清志、永井裕（代理：上野晋）、中張茂（代理：土井敏治）、中村光、長谷川眞二（代理：奈良省吾）、服部武、平澤弘樹、藤本拓司、山村雅之（代理：浅野健志）、六反省一（代理：橋口和弘）
 - (2) 総務省
桜井総合通信基盤局長、吉田電波部長、山田総合通信基盤局総務課長、竹内移動通信課長、豊嶋移動通信課推進官、山崎移動通信課課長補佐
- 4 議事内容
 - (1) 開会
 - 事務局から本会合の議事次第の確認及び配布資料確認
 - (2) 携帯電話エリア整備推進検討会報告書（案）について
 - 事務局から配布資料に基づき説明を行った。
 - (3) 意見交換
 - 新たに整備されることでどれだけ加入されているのか、これまでやってきた成果として実態をデータで示すべきではないか。また、費用対効果について何らかの形で記載するべきではないか。
 - どこまで整備すればいいのか、居住地域だけ整備をすればいいのかというと、山の中では使えないという話もあり、切りがない。また、国・自治体・事業者のだれが整備するか、難しいところ。肅々とやるしかないと思う。無線技術の進歩があり、対応していくのも大変。エンドレスな課題で先が長い話である。
 - パブコメで北海道が全額国負担という意見が出ているが、ほかの公共事業で、日本全国津々浦々でサービスするようなもので、地方への助成において場所によってグレードをつけるものがある。今後の話として、場所の選択というものがあるかもしれない。
 - ユニバーサルサービスにするかどうかの話は、総務大臣が光の道構想で、2015年まで30Mぐらいのネットワークを誰でも使えるよう考え始めているので、パブコメに対しての考え方として、まだ早いというより前向きに考えているが大変であるぐらいという書き方でもいいのではないか。
 - 携帯電話のユニバーサル化と有線で張り切れない最後のところをプロ

ードバンドの電波でという両方の話があり、決められない話であるが、道を開いておく書き方がいいのではないか。

- 人口カバーエリアは99%と高いが、一方、エリアとしての面積カバー率は日本全体で6割程度である。今後続けていくなら、衛星の利用も含めて、日本全国を大きくカバーしていくような姿勢で取り組む、といった広い視点が必要ではないか。
- グローバルな社会経済のなかで、キャリアの自助努力で世界のどこでも使えるような形で模索していると思うが、単なる国内だけでなく、海外における観点も必要でないか。
- 行政刷新会議での議論でもそうだったが、居住地でないエリアの整備において 過疎地のエリア整備対策と都会の地下の遮へい空間地下鉄駅間対策については違う観点が必要。
- コスト削減のため、携帯電話事業者の協調が必要というのはもともと。競争関係があるので難しいところであるが、協調しているところは実績を公開していくことも必要ではないか。
- 早期エリア拡大に取り組んでいるが、国の財源確保をお願いしたい。併せて、過疎地では整備効率が悪くなってくるので、携帯電話事業者の参画を最大限配慮していただきたい。
- 現在、エリア未整備で残っているところは、事業者の採算が取れず特に伝送路がネック。全額は難しいとは思いますが、国の支援策の拡充に配慮していただきたい。

(4) そのほか

- 報告書(案)の表現の修正については座長に一任。追って事務局より各構成員に最終報告書を送付するとともに、準備が出来次第、報道発表することとなった。
- 桜井総合通信基盤局長より閉会に際して挨拶があった。
- 座長より、「携帯電話エリア整備推進検討会」閉会の挨拶があり、閉会。